



BEPPU UNIVERSITY

令和元年度

雇用主アンケート調査結果報告書

令和2年3月1日

別府大学

はじめに

平成 30 年度にアセスメント・ポリシーの一環として、別府大学教育への「卒業生調査による『卒後評価』」を把握するため、聴き取りによる卒業生アンケートを実施し、その結果をホームページ上に公開しています。

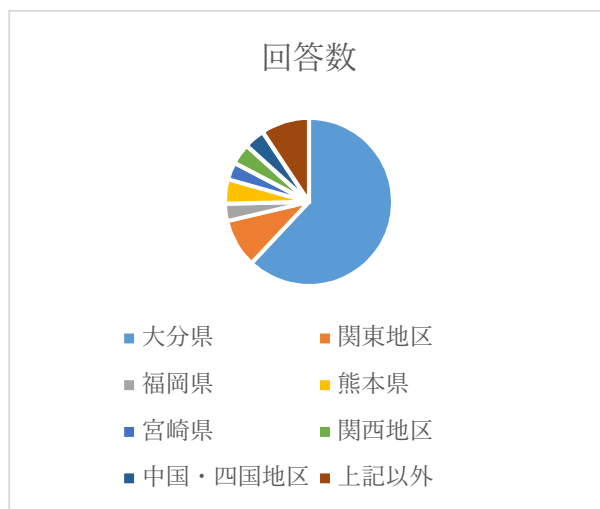
令和元年度からは、さらにアセスメント・ポリシーに基づく「地元社会・産業界からの『外部評価』」として、卒業生の就職先での卒業生に対する評価を把握するため、過去 5 年間の卒業生の就職先にアンケートを実施しました。その結果、依頼に対して 150 件の回答が得られました。今回の調査は、就職した学生の学部・学科を問わずに行っているため、学科ごとの DP 達成度を測ることはできませんでしたが、別府大学全体の傾向を知る上では大変参考になる結果が出たと考えています。忙しい中、アンケートにご協力いただいた企業・団体の関係者に感謝申し上げます。今後この結果を教育改善に活用し、高等教育機関である大学の教育の質保証に繋げていく所存です。

雇用主アンケート調査結果

問1. ～問6. は、主に回答いただく企業の状況について質問

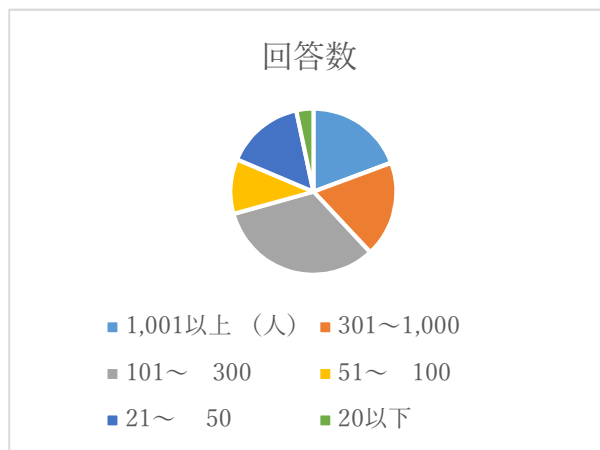
問1. 本社所在地

所在地	回答数	割合%
大分県	93	62
福岡県	5	3
熊本県	7	5
宮崎県	5	3
関東地区	14	9
関西地区	6	4
中国・四国地区	6	4
上記以外	7	5
未回答	7	5



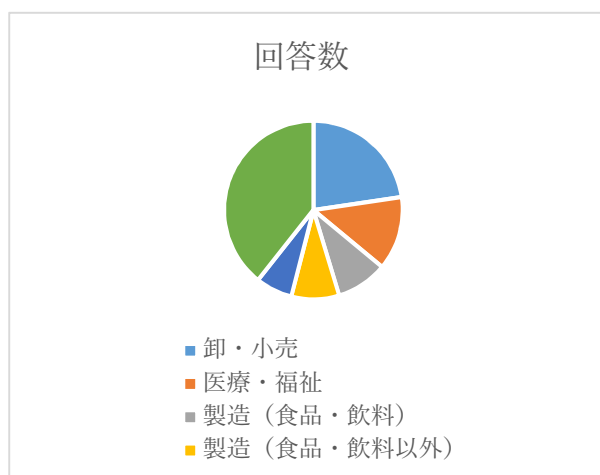
問2. 従業員（職員）規模

従業員（職員）数	回答数	割合
1,001以上（人）	29	19
301～1,000	28	19
101～ 300	49	33
51～ 100	16	11
21～ 50	23	15
20以下	5	3



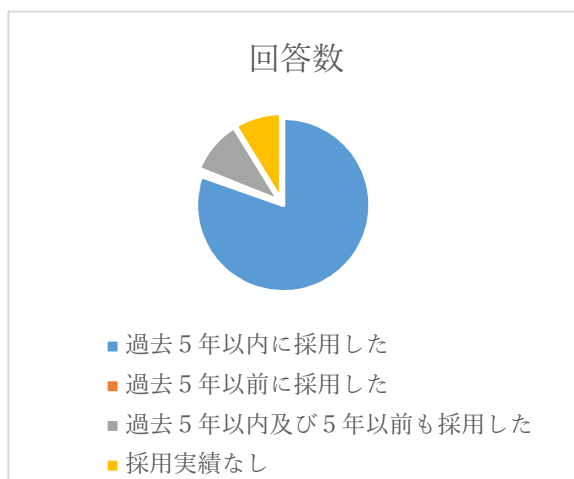
問3. 主たる業種

主たる業種	回答数	割合
卸・小売	34	23
医療・福祉	20	13
製造（食品・飲料）	14	9
製造（食品・飲料以外）	13	9
金融・保険	10	7
上記以外	59	39



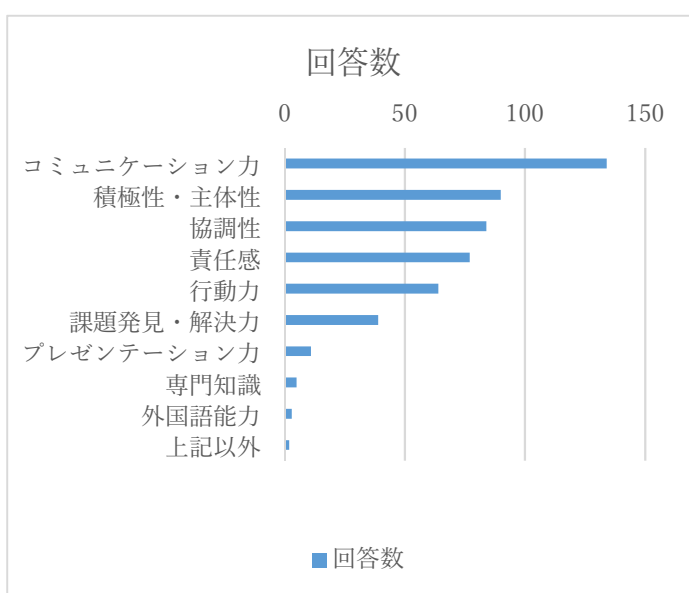
問4. 本学からの採用実績

本学からの採用数	回答数	割合
過去5年以内に採用した	119	79
過去5年以前に採用した	1	1
過去5年以内及び5年以前も採用した	15	10
採用実績なし	13	9



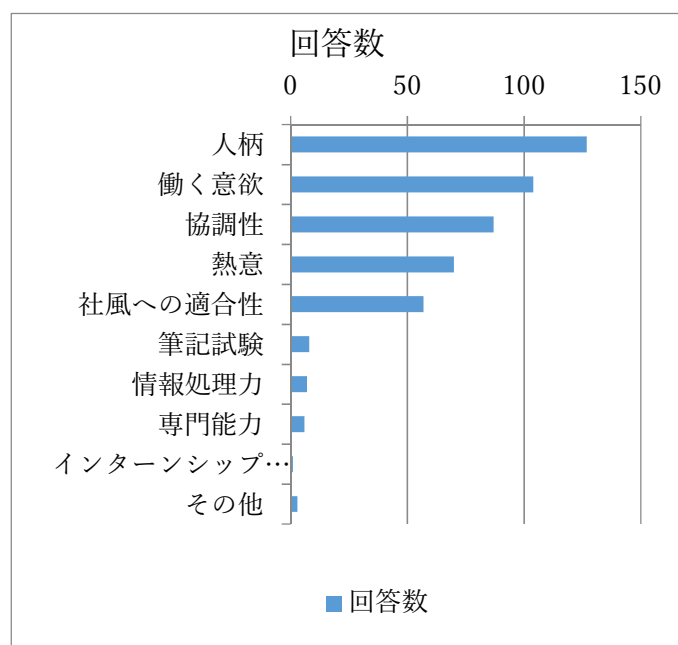
問5. 求める（重視する）能力[複数回答可]

求める能力	回答数	割合
コミュニケーション力	134	26
積極性・主体性	90	18
協調性	84	17
責任感	77	15
行動力	64	13
課題発見・解決力	39	8
プレゼンテーション力	11	2
専門知識	5	1
外国語能力	3	1
上記以外	2	0



問6. 重視する事柄[複数回答可]

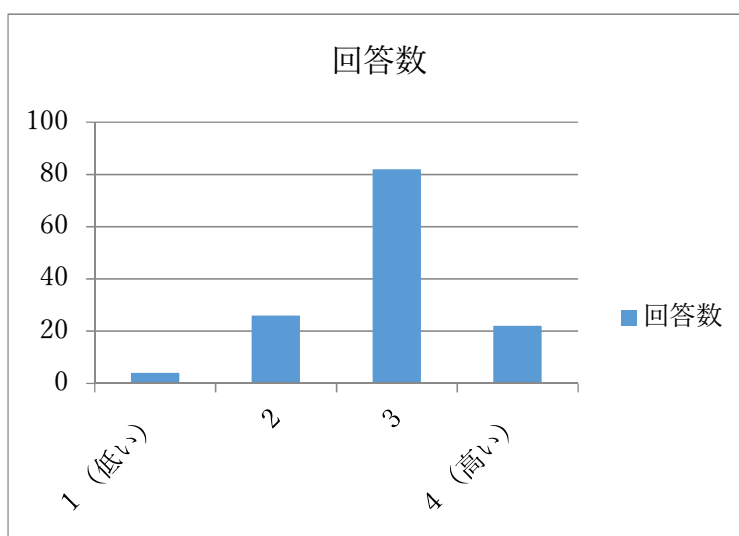
重視する事柄	回答数	割合
人柄	127	27
働く意欲	104	22
協調性	87	19
熱意	70	15
社風への適合性	57	12
筆記試験	8	2
情報処理力	7	1
専門能力	6	1
インターンシップ経験	1	0
その他	3	1



問7. ～問16. は、本学卒業生の修得している能力について質問
 [不足している]から[できている・ある等]を、1から4の数値で回答

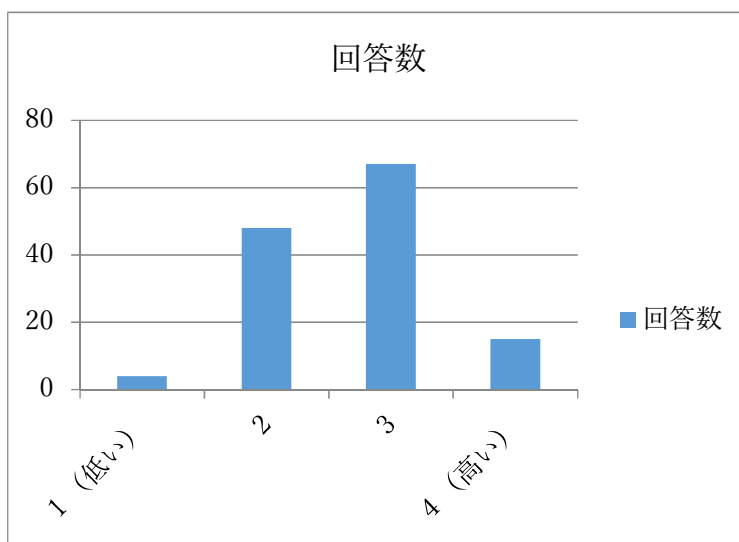
問7. 社会人として必要な常識・
 幅広い知識教養を身につけている
 か

数値	回答数	割合
1 (低い)	4	3
2	26	19
3	82	61
4 (高い)	22	16



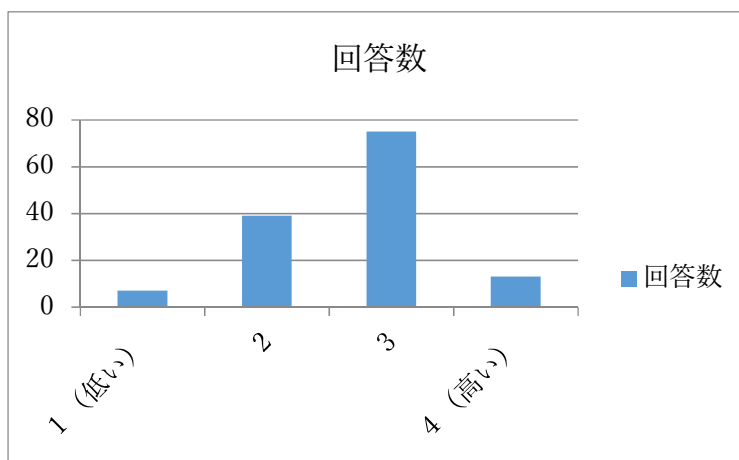
問8. 専門分野で身につけた基本的な知識・
 技能を活かすことができているか

数値	回答数	割合
1 (低い)	4	3
2	48	36
3	67	50
4 (高い)	15	11



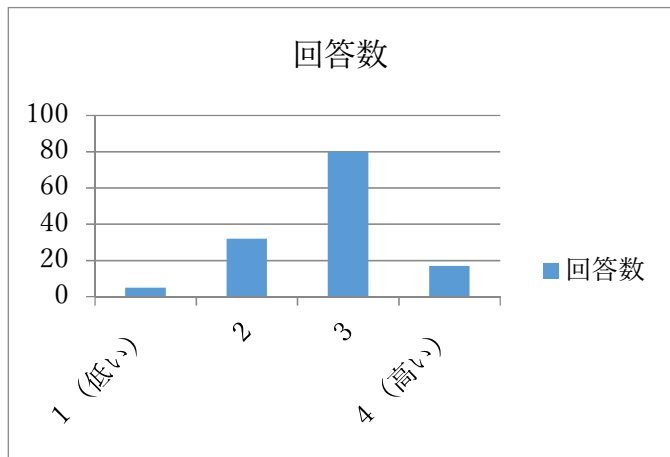
問9. 論理的に考え分析する能力
 はあるか

数値	回答数	割合
1 (低い)	7	5
2	39	29
3	75	56
4 (高い)	13	10



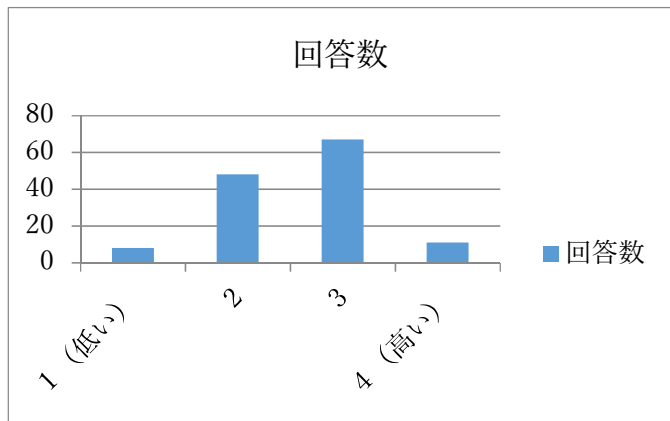
問 10. 主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか

数値	回答数	割合
1 (低い)	5	4
2	32	24
3	80	60
4 (高い)	17	13



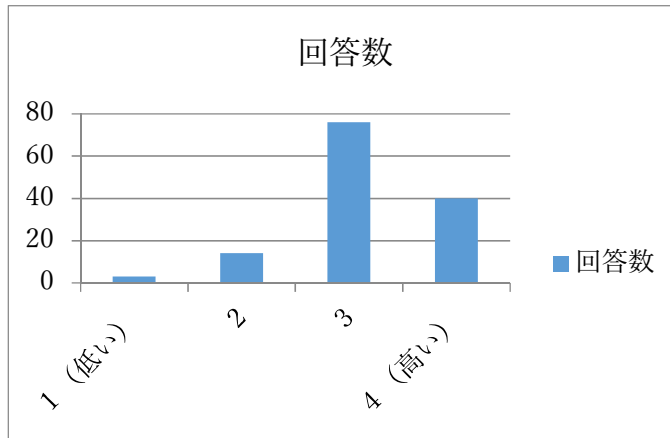
問 11. 組織での活動においてリーダーシップを発揮することができているか

数値	回答数	割合
1 (低い)	8	6
2	48	36
3	67	50
4 (高い)	11	8



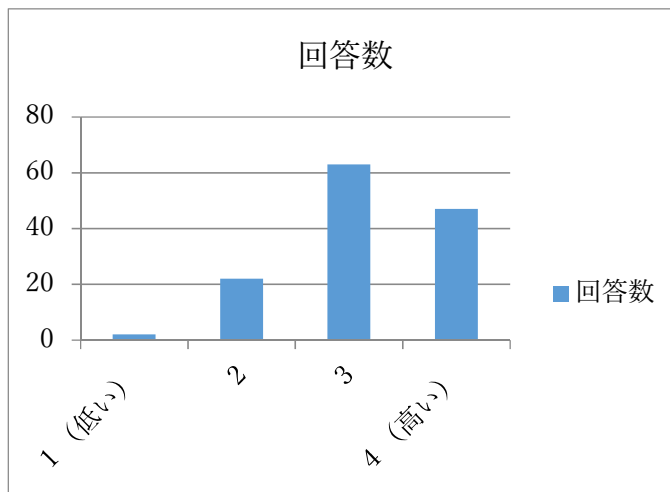
問 12. 組織において、他社や他部門と協調・協力して仕事を進めることができているか

数値	回答数	割合
1 (低い)	3	2
2	14	11
3	76	57
4 (高い)	40	30



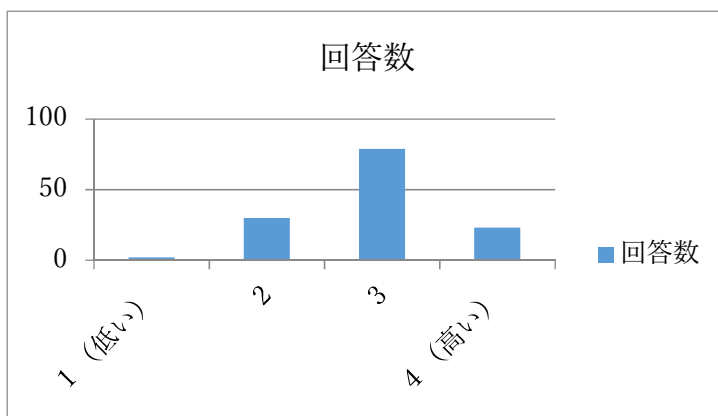
問 13. 場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか

数値	回答数	割合
1 (低い)	2	1
2	22	16
3	63	47
4 (高い)	47	35



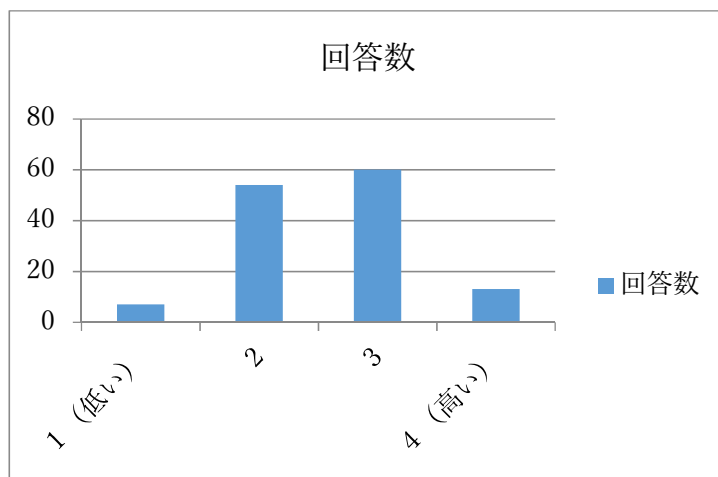
問 14. 自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか

数値	回答数	割合
1 (低い)	2	1
2	30	22
3	79	59
4 (高い)	23	17



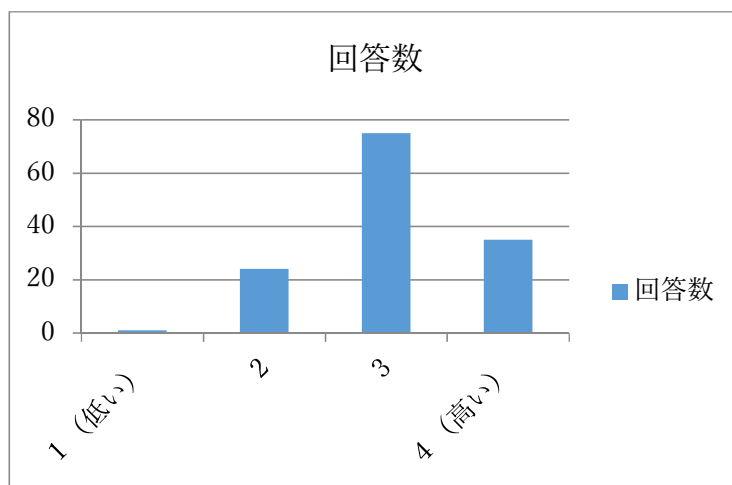
問 15. 社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができるか

数値	回答数	割合
1 (低い)	7	5
2	54	40
3	60	45
4 (高い)	13	10



問 16. 基本的な情報処理能力 (パソコンスキル等) を身につけているか

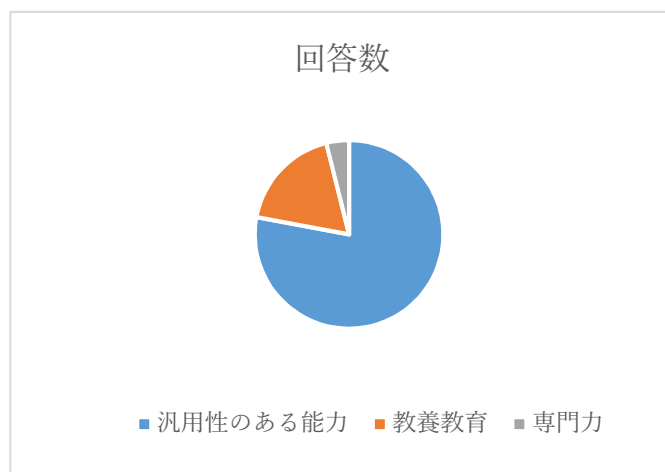
数値	回答数	割合
1 (低い)	1	1
2	24	18
3	75	56
4 (高い)	35	26



問 17. から問 18. は、回答いただく企業の今後の希望等について質問

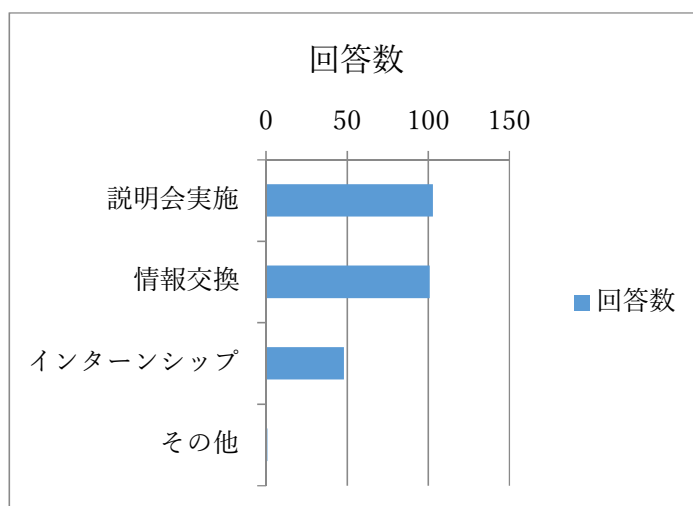
問 17. 企業として本学で身に付けても
らいたい能力は何ですか

能力	回答数	割合
汎用性のある能力	120	78
教養教育	28	18
専門力	6	4



問 18. 今後、以下の事項について貴社
が希望することはどんなことですか
(複数回答可)

希望事項	回答数	割合
説明会実施	103	41
情報交換	101	40
インターンシップ	48	19
その他	1	0



アンケート調査の結果

問 7 は教養に関し、問 8 は専門力、問 9、10 は汎用力の中の思考力、問 11、12 は汎用力の中の実行力、問 13、14 は汎用力の中の表現力、問 15、16 は汎用力の中の情報力について調査を行った。

教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）

(1) 大学教育に必要な思考力や表現力などの基礎的素養を身につけ、本学の建学の理念、教育方針等を理解している。

(2) 特定の主題について、多角的、総合的、複合的に思考する能力を身につけ、体験や実践の中から学ぶことができる。

(3) 人間と文化の探求、現代社会の多面的理解、科学技術と自然環境の理解に必要な基礎的素養を身につけ、情報処理や英語の基本的なリテラシーを身につけている。

(4) 専門分野の学修を通じて、人間や社会、学問等についての基礎的素養を身につけている。

問7. 社会人として必要な常識・幅広い知識教養を身につけているか (77.6%)

※問の () 内は3、4と回答した割合

評価 (1~4)	理由
3	<p>質問に対する4段階評価のうち、3及び4の評価をしたのは全体の77.6%で、8割近い雇用主から肯定的な評価をいただいた。ただし、最も高い4の評価をしたのは16%にすぎなかった。一方、2の評価をしたのが19.4%、1の評価をしたのが3%と合わせると23%近くあり、全体の2割以上に社会人としての知識・教養が十分身につけていないとすれば、原因を探り、改善方法を検討する必要がある。身につけてもらいたい能力として教養教育を挙げた企業も18%あり、自由記述として「弊社においては、専門知識云々よりも一般的な社会的常識・知識が身につけているか否かを重要視しており、近年における貴学の卒業生の方々については、良い意味で弱点の少ない、安定したタイプが多いと考えています。」といった評価もあるので、良い学生がいることも確かである。教養が不足しがちな学生への対策を考える必要がある。</p>

専門力 (専門に関する基本的な知識、技能)

<社会的意義><職業生活で評価される能力><専門に関する能力>

問8. 専門分野で身に着けた基本的な知識・技能を活かすことができているか (61.2%)

評価 (1~4)	理由
3	<p>質問に対する4段階評価のうち、3及び4の評価をしたのは全体の61%で、決して高い評価とは言えない。5割は評価3であった。一方、2の評価をしたのが36%、1の評価をしたのが3%と合わせると4割近くあり、専門的な知識・技能を活かすことができているケースが少ないことになる。この評価の中には、専門の知識・技能が活用できる職場ではないとの意味合いが含まれていると思われるので、今後質問内容を変える必要がある。今後、専門性を活かすことができている(できていない)職場がどのようなところなのかを把握するとともに、教育面でも、専門教育を通じてどのような能力を養成するのかを考えていく必要がある。</p>

汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

問9. 論理的に考え分析する能力はあるか (65.7%)

問10. 主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか (72.4%)

評価 (1~4)	理由
3	質問に対する4段階評価のうち、問9では、3及び4の評価をしたのは全体の66%、問10では73%であった。しかしいずれも最も高い4の評価をしたのは10%台にとどまる。一方、2の評価は問9では29%、問10では24%と低い評価も目立つ。本学の学生に関して言えば、論理的に考え分析する能力よりは主体的に課題を発見し解決に取り組む能力の方が高いと言えるのかもしれない。自由記述で、「課題発見、業務、行動、解決策すべて主観的な方(若者)が多く客観視できない。自分は関係ないからとか、問題解決から逃げる方が非常に多い→責任有る仕事がしたくない。(中略)働くという事は常に疑問をもつ考えで行動する人材が必要です。」とあり、教育によって卒業生の評価を高めるためには、やはり課題解決型などのアクティブラーニングもある程度必要なのではないかと思われる。

(2) 実行力

自ら計画し実行することができる。組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

問11. 組織での活動においてリーダーシップを発揮することができるか (58.2%)

問12. 組織において、他者や他部門と協調・協力して仕事を進めることができるか (86.6%)

評価 (1~4)	理由
3	質問に対する4段階評価のうち、問11では、3及び4の評価をしたのは全体の58%と低かったが、問12では87%であった。しかも問12では最も高い4の評価が30%にのぼり、本学の卒業生が、協調性に富んでいることを示唆している。一方、2の評価は問11では36%にのぼり、本学の学生が比較的小となし、リーダーシップを取る学生が少ないことを反映しているように思われる。人にはそれぞれ強みがあるので、協調性、リーダーシップともに身につけていることが必ずしも必要とはいえないが、本学の学生の強みの傾向を把握し、教育に活かすことは必要であろう。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

問13. 場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか (82.1%)

問14. 自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか (76.1%)

評価 (1~4)	理由
3	質問に対する4段階評価のうち、問13では、3及び4の評価をしたのは全体の82%、問14では76%であった。問13では最も高い4の評価をしたのは35%にのぼった一方、問14は17%だった。その場にふさわしい振る舞いはできるが、自分の考えを発信するという面でのコミュニケーション力が弱い側面がうかがえる。コミュニケーション力についても、教育の中での発言の機会を確保するなどの工夫が必要と考えられる。「好奇心旺盛な人は入社後に伸びる傾向にあります」という自由記述があるが、自ら関心を示し、行動に移すという作業を大学生活の中で経験してもらうような環境づくりも必要なのではないだろうか。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心をもち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

問15. 社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができているか (54.5%)

問16. 基本的な情報処理能力 (パソコンスキル等) を身につけているか (82.1%)

評価 (1~4)	理由
3	質問に対する4段階評価のうち、問15では、3及び4の評価をしたのは全体の55%にとどまった一方、問16では82%であった。また、2の評価は問15では40%と、本学の卒業生に社会的関心が薄いことがうかがえる。本学の学部の特性上、社会科学分野の授業は比較的少ないため、教養の授業などで社会的関心を喚起するような授業の新設や既存の授業内での工夫が必要と考えられる。パソコンスキルなどの技能については、比較的高い結果が出たが、基本的な能力についてはおそらく他大学とも差がない代わりに、むしろ、これからはデータサイエンスなどより高度な技能を身につける学生を育てる必要性があるのかもしれない。

総評：

問12、13、16など80%を超える評価もあるが、平均するとすべて評価は3となった。本学の卒業生が、どちらかと言えば全体の中で協調して仕事を行う傾向にある反面、目立つようなリーダーシップや、社会的関心などは低く、全体の中で無難に仕事をこなしているという傾向が見られる。このような学生の傾向を踏まえつつ、DPに掲げた教養、専門力、汎用力をさらに身につけて卒業してもらうためには、どのようなカリキュラム改革や授業改善が必要なのかを各授業担当者のみならず、学科・学部・大学単位の組織として考えていく必要があるだろう。

まずは次年度に向けて、アセスメント結果を学科にフィードバックし、各学科で改善策を考えたいうえで、一歩ずつでも実行に移すことが肝要である。

別府大学アセスメントポリシー

1. 目的

別府大学は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行ない、かつ、成績評価を含めた複数の方法で学生の学修到達状況を多角的・総合的に評価することによって、教育の質の向上及び教育の質の保証を行う。

2. 成績評価

別府大学は、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づき、シラバスに明示した授業の到達目標及び評価方法並びに学科履修規程に明記された成績評価の区分によって、厳格で客観的・公正な成績評価を行う。

3. 成績評価を含めた多角的な学修到達状況の評価

別府大学は、2の成績評価に加え、ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーに基づき、各学科・課程等（学位又は教育プログラム策定単位）を基本に、その学修内容等に応じ、下記から選択した複数の方法で学生の学修到達状況や達成すべき質的水準を多角的・総合的・客観的に検証（測定）・評価する。このことによって、ディプロマポリシー（学修到達目標）を起点としたPDCAサイクルを回し、授業内容、授業方法、評価基準、カリキュラム、入学者選抜などについて改善を図るとともに、ディプロマ・カリキュラム・アドミSSIONの各ポリシーについて必要な見直しを行う。さらに、学修成果(到達目標)の達成度評価を集約し、別府大学全体の学修成果の達成状況进行评估する。

① ポートフォリオ学修支援システムでの「学生による評価」

学生自身が、ポートフォリオ学修支援システムを利用して、学修成果(到達目標)の達成度を自己評価する。

② 口頭試問での「教員による評価」

卒業時に修得することが期待される学修成果(到達目標)を、卒業論文・卒業制作発表会または口頭試問によって評価する。

③ まとめ試験による「客観評価Ⅰ」

科目区分毎に「まとめ試験」による内部アセスメントテストを行い、修得することが期待される学修成果(到達目標)について達成度を確認する。

④ アセスメントテストによる「客観評価Ⅱ」

客観的な評価を行うために、外部テストなどを利用したアセスメントテストによって、学修成果(到達目標)の達成状況进行评估する。

⑤ 卒業生調査による「卒後評価」

別府大学教育への評価、職業生活や社会生活での必要な知識と能力、別府大学への希望などについて、卒業生への調査を行うことで、学修成果(到達目標)の達成状況进行评估する。

⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

在学生においては、実習先訪問や実習連絡会議等を通して、学外実習先の企業や施設などでの学生に対する評価を把握し、到達目標の達成度进行评估する。卒業生においては、就職先の企業等での卒業生に対する評価を把握し、到達目標の達成度进行评估する。

令和元年度アセスメント・ポリシーに基づく達成度評価

⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

目的：別府大学アセスメント・ポリシーでは、評価指標⑥として「地元社会・産業界からの『外部評価』」を定めている。これに基づき、「令和元年度雇用主アンケート」の結果から DP 達成度を評価し、本学の教育・研究上の課題を明らかにする。

実施方法

1. 「令和元年度雇用主アンケート」の結果に基づき、別府大学のすべての学部・学科の学生が共通して身につけることとしている①教養 ②専門力 ③汎用力について、それぞれ4段階で到達度を評価する。
2. 4段階の評価基準は、以下の表のとおりとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%以上
3	DP の達成度が 60%以上 80%未満
2	DP の達成度が 40%以上 60%未満
1	DP の達成度が 40%未満

3. DP の3つの力について、達成度についての総評を行う。

評価結果の集約：各学科・部署で実施するアセスメント・ポリシーに基づく調査等の結果は、IR 推進委員会が集約する。

評価結果の報告・公表：評価結果は学長への報告後、大学企画運営会議で報告し、別府大学ホームページ上に公開する。

企業等へのアンケート調査依頼文

令和元年9月吉日

採用ご担当各位

別府大学
学長 飯沼 賢司

アンケート調査ご協力をお願い

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素より、本学学生の就職活動及び採用につきまして格別のご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、別府大学では、企業・団体等の採用担当者の皆様を対象にアンケート調査を行うことになりました。本学学生の採用にあたって、貴組織に必要な人材となるための力について等のご意見をおうかがいし、本学の今後の教育力の向上、改善に活かしたいと考えております。

つきましては、下記のような方法にて実施いたします。ご多用中大変恐縮ですが、ご協力いただけますようよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 目的

各企業・団体の採用担当者の皆様に本学学生の採用や仕事面における必要な人材についてご意見をおうかがいし、今後の教育力の向上や改善に活かしたいと存じます。

2. 調査対象

本学卒業生の就職先および就職活動の対象先

3. 回答期限

令和元年9月30日（月）

4. 実施方法、回収方法（①もしくは②の方法で回答）

①URLまたはQRコードを用いて、インターネット上のアンケートページにアクセスして回答する。

②別紙：「別府大学 本学卒業生に関するアンケートご協力をお願い」に記入の上、下記のFax番号へ送付する。

※尚、回答は機械的に処理され、社名等が特定できるような形で利用されることはありません。

URL <https://forms.gle/KDNba2TDAFqW3pvr9> QRコード

FAX 0977-66-9681

<問合せ先>

〒874-8501 大分県別府市北石垣82

別府大学キャリア支援センター(担当 高橋・山上)

Tel:0977-66-9623

Fax:0977-66-9681

以上

別府大学 本学卒業生に関するアンケートご協力のお願い

別府大学では、このたび企業・団体等の採用担当者の皆様を対象にアンケート調査を行うことになりました。本学学生の採用や仕事面における必要な人材についてご意見をおうかがいし、本学の今後の教育力の向上、改善に活かしたいと考えております。ご協力の程よろしくお願いいたします。

尚、回答は統計的に処理され、社名等が特定できるような形で利用されることはありません。

内に該当の番号をご記入ください。

○貴社について (基本項目)

問1. 本社所在地

- 1. 大分県 2. 福岡県 3. 宮崎県 4. 熊本県 5. 佐賀県 6. 長崎県 7. 鹿児島県
- 8. 沖縄県 9. 中国・四国地区 10. 関西地区 11. 関東地区 12. 上記以外の地区

問2. 従業員 (職員) 規模

- 1. 20人以下 2. 21~50人 3. 51~100人 4. 101~300人
- 5. 301~1000人 6. 1001人以上

問3. 主たる業種

- 1. 農・林・水産 2. 建設 3. 製造 (食品・飲料) 4. 製造 (食品・飲料以外) 5. 情報・通信
- 6. 広告・メディア 7. 運輸・郵便 8. 卸・小売 9. 金融・保険等 10. 不動産・物品貸借
- 11. 宿泊 12. 飲食サービス 13. 教育・学習 14. 医療・福祉 15. 上記以外のサービス業
- 16. 公務 17. その他

問4. 本学からの採用実績

- 1. なし 2. あり (5年以内) 3. あり (5年超または時期不明)

○人材像について

問5. 貴社が求める (重視する) 能力はどのような能力ですか (複数回答可)

- 1. 課題発見・解決力 2. コミュニケーション力 3. 専門知識 4. 行動力 5. 責任感
- 6. 積極性・主体性 7. 協調性 8. 表現力 (プレゼンテーション力) 9. 外国語能力
- 10. その他 ()

問6. 採用において重視する事柄は何ですか (複数回答可)

- 1. 人柄 2. 働く意欲 3. 熱意 4. 社風への適合性 5. 専門能力 6. 協調性
- 7. 情報処理力 8. 筆記試験 9. インターンシップ経験 10. その他 ()

(本学からの採用実績がある企業様へ 問7~16について1~4で回答してください)

問7. 社会人として必要な常識・幅広い知識教養を身につけているか

不足している ←—————→ 身につけている

1 2 3 4

問8. 専門分野で身につけた基本的な知識・技能を活かすことができているか

不足している ←—————→ できている

1 2 3 4

問9. 論理的に考え分析する能力はあるか

不足している ←————→ ある
1 2 3 4

問10. 主体的に課題を発見し、解決に取り組む能力はあるか

不足している ←————→ ある
1 2 3 4

問11. 組織での活動においてリーダーシップを発揮することができるか

不足している ←————→ できている
1 2 3 4

問12. 組織において、他社や他部門と協調・協力して仕事を進めることができるか

不足している ←————→ できている
1 2 3 4

問13. 場面にふさわしい言葉遣いやマナーを身につけているか

不足している ←————→ 身につけている
1 2 3 4

問14. 自分の考えを的確に表現できるコミュニケーション力を身につけているか

不足している ←————→ 身につけている
1 2 3 4

問15. 社会の動向や問題に関心を持ち、必要な情報を収集することができるか

不足している ←————→ できている
1 2 3 4

問16. 基本的な情報処理能力（パソコンスキル等）を身につけているか

不足している ←————→ 身につけている
1 2 3 4

○本学に求めるもの、期待するものについて

問17. 企業として本学で身に付けてもらいたい能力は何ですか

1. 人間形成に必要な教養
2. 仕事に必要な専門力
3. 社会で活用できる汎用性のある能力

(論理性・主体性・判断力・企画力・コミュニケーション力・リーダーシップ等)

問18. 今後、以下の事項について貴社が希望することはどんなことですか(複数回答可)

1. 本学の先生や就職担当者との情報交換
2. インターンシップ派遣の増加
3. 学校主体の合同説明会・単独説明会・セミナー等の開催

(上記以外に可能なことがあれば記載をお願いします)

{

}

問19. その他、自由意見を記載をお願いします。

{

}

・ご協力ありがとうございました。